

青雲の志

岩手県立花北青雲高等学校
校長通信 第60号
令和5年3月1日発行
文責 校長 佐々木 伸良

『未来は、君たちの時代だ』 ～しなやかに しぶとく したたかに～

式辞

周りの雪も解け始め、窓辺の日差しは、光の春となり、冬鳥は旅たちの時となりました。

本日は、御来賓、保護者の皆様の御臨席を賜り、岩手県立花北青雲高等学校卒業式を挙げてまいりますことに、心より感謝申し上げます。

ただ今、卒業証書を手にした150名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

また、本校入学以来、お子様を支え、励まし、育ててこられました保護者の皆様に、心から敬意を表し、お祝いを申し上げます。

本校の校訓には、『自立 創造』のもと、「社会的に自立し、社会に貢献できる力を養うとともに、学校生活を通じて知と技の創造力を高め、自らの将来設計に資するよう努める。」とあります。

皆さんは、学業や部活動、生徒会、ボランティア、地域貢献活動などを通して、自分の可能性に挑戦し、社会に貢献できる人材となるよう努力してきました。

特に、コロナ禍のこの3年間は、思い通りとならないことがたくさんありました。しかし、困難な状況だからこそ、知恵を出し合い、創意工夫をすることで、困難をチャンスに変え、新しいものを生み出してきました。自分の可能性を広げ、新境地を開拓するには、時間と労力、そして経験が必要です。コロナ禍で得た多くの経験は、次に生きるはずで

これからの人生においても、さまざまな経験することになります。時にその経験は、自分にとって大きな試練となる経験もあります。私はこれまで多くの失敗や挫折を経験してきました。心が折れそうになった時もありました。

でも今の自分があるのは、そういった失敗や挫折の経験があったからだと考えます。こういった経験は、生き方の柔軟性を身につけてくれます。

いつの時代も、先の見えない時代であり、簡単に問題を解決することができない時代です。新型コロナウイルス感染症や他国との争い、地震などの自然災害といった問題は、簡単には解決できません。しかし私たち人間は、幾度の試練も乗り越えてきました。人生は、平坦でまっすぐな道ではありません。むしろ山あり谷あり、変化に富んだ道なき道を開拓していくのです。

後ろを振り返れば、その道は一本の道となっているはずで、自分の人生を切り拓く勇気を持ち、一步一步力強く歩いて欲しい。大丈夫、怖がることはない、誰もが、経験していくことです。

その経験が、困難にぶち当たっても、しなやかに、しぶとく、そしてしたたかに切り抜ける力を身につけてくれます。

皆さんの可能性は無限大であり、その能力を発揮するのは、10年後、いや20年後です。その時まで、さまざまな経験を積んでおきましょう。

結びに、保護者の皆様、同窓生や地域の皆様には、これまで、卒業生を励まし、支えていただくとともに、本校の教育活動に、ご理解とご協力を賜りましたことに心から感謝申し上げます。

私たち教職員一同は、皆さんの前途が健やかで、幸多きことを心から祈念し、式辞といたします。

令和5年3月1日

岩手県立花北青雲高等学校
校長 佐々木 伸良



2/28(火) 同窓会入会式



同窓会長の藤原康洋様より卒業する3年生に熱いメッセージをいただきました。また、クラス幹事を代表し、戸来和生さんから同窓生の一員としての決意表明がありました。